

入院による専門的治療・精密検査のご案内

当院では、医師が医学的適応と判断した場合に短期入院での対応を行っております。

① 急性期における疼痛・神経症状の入院管理

脊椎・脊髄疾患に伴う急性期の強い疼痛や神経症状に対して、担当医師が入院による集中的な保存療法が必要と判断した場合、短期入院での対応を行っております。

医師が入院適応と判断する主なケース

急性腰痛・下肢痛	安静保持と点滴による鎮痛薬・筋弛緩薬の投与が必要と判断した場合
頸椎症による上肢症状	神経症状（しびれ・脱力）の増悪リスクがあり、安静管理が必要と判断した場合
神経根症状の急性増悪	強い放散痛・神経障害に対して、点滴によるステロイド・鎮痛薬投与が必要と判断した場合
脊柱管狭窄症の急性増悪	間欠性跛行・膀胱直腸障害の増悪に対し、緊急的な保存療法が必要と判断した場合

※ 入院の適応は、問診・神経学的診察・画像所見を総合した上で担当医師が医学的に判断いたします。

入院中の主な治療内容

- 点滴による鎮痛薬・筋弛緩薬・ステロイド薬の投与
- バイタルサイン（血圧・脈拍・体温・SpO2）の定期的モニタリング
- 神経症状（運動麻痺・感覚障害）の経時的評価
- 安静度の管理と体位指導
- 翌日の診察による症状の再評価と治療方針の確認

② 精密検査の集中実施（診断的入院）

脊椎・脊髄疾患の診断には複数の専門的検査が必要となる場合があります。担当医師が複数検査の集中実施および結果に基づく治療方針決定が必要と判断した場合、1泊2日の診断的入院に対応しております。

入院中に実施する主な検査（担当医師が必要と判断したもの）

MRI・CT検査	脊椎・脊髄・椎間板・神経根の詳細な画像評価
脊髄造影（ミエログラフィ）	造影剤使用による神経圧迫部位の精密評価。処置後の安静と経過観察が必要
神経学的機能検査	筋電図・神経伝導速度検査による神経障害の客観的評価
骨密度・骨代謝検査	骨粗しょう症や代謝性骨疾患の評価
術前全身評価	手術適応検討に必要な心肺機能・血液検査等の包括的評価

※ 実施する検査は、症状・病態に応じて担当医師が選択いたします。すべての検査を実施するものではありません。

診断的入院の流れ（1泊2日の例）（入院日数は2日分となります。）

- 【1日目】初診・問診・神経学的診察 → 必要な検査を集中実施 → 入院管理開始
- 【1日日夜】安静保持・バイタル管理（検査内容に応じた処置後観察を含む）
- 【2日目】症状・全身状態の確認 → 担当医師による検査結果の説明
- 【2日目】治療方針（保存療法・手術等）のご説明 → ご退院

入院に関する重要事項

■ 入院の適応判断について

入院の適応はすべて担当医師が診察・検査所見に基づき医学的に判断いたします。

■ 医療法・関係法令の遵守について

当院は医療法および関係諸法令を遵守した適切な入院管理を行っております。入院の必要性・内容については診療録に記録し、適正な医療を提供いたします。

■ 事前のご相談について

遠方からお越しになる場合は、事前に外来予約の際にお申し出ください。

ご不明な点は、外来受付またはお電話にて
お気軽にお問い合わせください。